

広報 なかふと

毎月10日発行
7/10
1987
《No.372》

もうすぐ蕎麦をつくるんですよ



おもな内容
2~4ページ 商店日誌を寄せる
5ページ 知るさと産業あし
6ページ ストップ・ザ・交通事故
7ページ 広報委員
8~9ページ お知らせ
10~11ページ 角の話題・人生往来
12ページ 行事予定表

私たちの村の
()内は前月比
■人口 男 3,440(=5)
女 3,418(+4)
計 6,858(=10)
■世帯数 1,635(=2)

編集発行 中里村役場総務課 〒949-84 新潟県中魚沼郡中里村大字田沢己2133番地 TEL (0257) 63-2511

行事予定表

7月11日～8月10日

12(日)	親子自然観察教室(高山植物観察 小松原湿原 集合 8:15 総合センター) 休日救急医(津南病院 ☎ 65-3161)
13(月)	運転者講習会(倉俣地区 倉俣生活改善センター 19:30～21:30)
16(木)	運転者講習会(貝野地区 貝野多目的集会所 19:30～21:30)
17(金)	心配ごと相談日(老人福祉センター 13:00～16:00 相談員 藤田義一) 移動図書館(芋川、倉俣 12:00～13:00)
19(日)	七ッ釜まつり(七ッ釜 10:00～ 山菜汁サービス、宝さがし、ニジマスつかみどり) 休日救急医(大島医院 ☎ 52-2957) 移動図書館(重地、下山、田代 12:00～13:30)
20(月)	
21(火)	運転者講習会(清津峡地区 高道山小学校体育館 19:30～21:30)
22(水)	高齢者講座(10:00～ クラブ活動、14:00～ 時事問題について講演会、総合センター)
24(金)	心配ごと相談日(老人福祉センター 13:00～16:00 相談員 江口行男) 運転者講習会(田沢南、北地区 総合センター 19:30～21:30) 妊婦検診、母親学級(右参照) 清津峡まつり 7月25日～8月2日
25(土)	
26(日)	村民体育大会(中里中学校 9:00～) テレビ放映(「タイス越山線の旅」TNN 12:00～12:55) 休日救急医(千手診療所 ☎ 68-2034)
27(月)	中里村社会教育短期大学(「日本経済と時事問題」総合センター 19:00～21:00) バレーボールナイターリーグ 7月27日～8月7日
31(金)	心配ごと行政相談日(老人福祉センター 13:00～16:00 相談員 江口行男、山田正平) 移動図書館(芋川、倉俣 12:00～13:00)
8/1(土)	テレビ放映(「清津峡を歩く」TBS 9:25～9:30) 村民ハイイク(尾瀬沼散策 ☎～☎) 第13回 十日町～飯山歩けあるけ大会 休日救急医(上村病院 ☎ 63-2111)
2(日)	
3(月)	交通事故移動相談所(十日町市役所 10:00～15:00) 移動図書館(重地、下山、田代 12:00～13:30)
5(水)	高齢者講座(津南町の高齢者との交流会 10:00～パネルディスカッション、13:00～講演会)
7(金)	心配ごと相談日(老人福祉センター 13:00～16:00 相談員 根津 敬)
9(日)	休日救急医(津南病院 ☎ 65-3161)
10(月)	村史特別講座(総合センター 19:30～)

※変更する場合があります。御用の際は担当課で確認を。



思い出の一枚

田中広田耕作さん

昭和二十一年に自宅の二階で手紡糸を始めたのをきっかけに事業を広げました。昭和三十年代は、十日町織物の全盛時代で、わたしの工場でも七十人近い女衆がいました。増反増反の時代でしたので、能率を上げるためにコンコースで流行歌を流し、女衆は流行歌を口ずさみながら手機を織ったものです。昭和四十年代の後半からは不景気に見舞われ、他の織屋さんも相次いでやめ、わたしの工場も昭和六十年に廃業しました。この写真は、昭和二十五年織物増産で優勝カップをいただいたとき、工場の前で撮ったものです。若い娘さんが多く華やいた時代のよい思い出です。

みなさん
お忘れなく



- 妊婦検診
7月24日/13:30～14:00/上村病院
- 母親学級
7月24日/12:45～13:00/上村病院/家族計画
- 献血
7月14日/10:00～15:00/保健センター前
- 村民健康検診
8月4日/9:00～10:30/如来寺、角間、葎沢、土倉、下、小出
13:00～14:30/芋沢、高道山、朴木沢、市之越、朴木沢新田、たか羽、白羽毛、程島
8月5日/9:00～10:30/小原、東田沢、豊里、新屋敷、本屋敷、堀之内
13:00～14:30/上山、宮中、干溝、通り山
8月6日/9:00～10:30/田中、田代、下山、重地
13:00～14:30/桔梗原、芋川、芋川新田、倉俣、清田山
8月7日/9:00～10:30/新里、原町、田沢、山崎
13:00～14:30/桂、荒屋、西方、西田尻、東田尻
- 子宮ガン検診
7月2、3、7、9、10、14、16、17、21、23、27、30、31日

編集後記

役場では、住民基本台帳、国民年金、国民健康保険、税等の事務を電算一元化するために、住民記録電算プロジェクトチームを編成しました。また、中里村のイメージアップを図るために村のイメージアッププロジェクトチームも活動しています。村のイメージアップによりアイディアがありましたら総務課まで連絡ください。「こんな村やだ」なんていつていないで、みんなが村のよさを見出し、他に誇れる村にしていきたいと思います。

今月の表紙



夢はぐくむ商店街づくりを

中里村商工会では、県の商工労働部で実施している「商店街診断」を、昨年受けました。この診断は、県中小企業総合指導班と山崎武中小企業診断士の手で行われました。この診断は、中里村の商業の進むべき方向性とそのための具体的方策を探るために行われました。今回は、この報告書を基に特集を組みました。

消費者の声

- ちょっとした買物でも配達してくれる。
- 営業時間が買物に便利である。
- 地元の人々が普段着で入れる気楽さがある。
- チケット祭りをもっと楽しみにしている。
- 18日のチケット3倍の日は、お客様に言われる前に出してほしい。
- Aコープと地元の商店のどちらにも行きたいので、自分の目玉をつくるなど、自らの役割づけをもっとほしい。
- 一軒で全部間に合う店がほしい。
- 品物がワンパターンで変化がない。
- 道路幅が狭くて車を停めるスペースもなく安心して買物ができない。

村内で買物 全体の約半数

昭和六十一年度の買物動向調査によれば、村内で買物をする人の割合は、全品目平均で五四・九％と約半数となっています。中でも、呉服、寝具、家具、服飾品などの買回品は、約六割が村外に流出しています。また、実用衣料や医薬品などの買回品では、三割が村外に流出しています。一番買物行動範囲の狭いといわれている日用雑貨、一般食料品などの最寄品でも、二割が村外に流出しています。村外で買物をする割合を学校別に見たのが次の表です。

学校別流出割合	
貝野小学校区	62.4%
清津峽小	49.6%
田沢小	43.9%
倉俣小	43.3%
高道山小	21.7%



街なみを統一し

魅力あるゾーンに



夢ある商店街へ

この結果を見ますと、村内でも二種業農家（農外収入が主）率の高い貝野地区の消費流出が一番多くなっています。この要因として考えられることは、貝野地区の多くの人たちが十日町市等に勤めていること、地元の中規模の商店が少なくことです。農業情勢がますます厳しい現状の中では、勤めに出る人が増え、買物客の村外流出が更に進む傾向にあります。また、国道一一七号線の改良が遅れていることで商店街の近代化が計れず、十日町市などの大型店に買物客が流れてい

魅力いまいち 商店街の現状

徒歩から荷車、荷車から自動車へと人の流れが変わってきました。国道一一七号線の田沢商店街の現状をみると、車を停めるスペースもなく、しかも交通量の増加で、ゆっくり買物をするという状態ではありません。

村内の買物客の商店街に対する意見としては、上記にも掲げたように、「品質の悪くなったのを平気で置く店がある」、「店内が狭くゴチャゴチャしている」、「接客態度が悪い」、「品数が少ない」などの声が聞かれます。

上に商店街としての「イメージ」や「雰囲気」づくりが大切なことは言うまでもありません。現状の商店街活動では、国道一一七号線の拡張時の商店街構想をまとめるのも難しい状態です。

車社会！ 駐車スペースの確保を

商店街に必要な施設に対しては、一、駐車場 二、歩車道の分離 三、アーケード 四、共同便所 五、街路灯などをあげています。車社会に対応した駐車場の設置は必要不可欠のものであり、歩車道の分離も買物客の安全性を図る意味で必要です。アーケード、街路灯の設置は、商店街のイメージアップにつながるものであり、ぜひとも実現したいものです。

強力なリーダー必要

国道拡張を契機に魅力ある商店街づくりを進めていくためには、協力なリーダーが必要で、このリーダーを中心に各商店が、自店の将来目標を定めるとともに商店街としての構想を打ち出す必要があります。

す。現在では、買物客の商品知識や品質、鮮度に対する感覚が鋭く、商店の対応も大変になってきています。その反面、買物客の流出で各商店が消費者ニーズに合わせた対応を機敏にできないという現実があります。また、商店の中には、農業や勤めで生計を補っている家も多く、大きな転換にともないがあるようです。

店の将来に 不安感

店の将来について「不安を感じている」と答えた経営者は、五七・八％に達しています。商店街を活性化していくためには、買物客のニーズに合った商店街の整備が必要です。しかし、今後の経営方針では、「現

地理的・人間的 つながり

地元で買物をする人たちの理由は、一、店が近いこと 二、顔なじみであること 三、営業時間が買物に便利であること 四、配達をしてくれることなどをあげています。このように、村内の商店街は、商品や店舗の魅力よりも、地理的、人間的つながりが強いこと

まとめ弱い 商店街活動

村内には商店街組織といわれるものはありません。商店街活動としては、商工会主導による、中元・歳末売出しとスタンプ事業（加盟五十四店舗）が行われています。その中でも、中里

が分ります。しかし、この傾向は、若者や若い主婦層になれば薄いと推測されます。今後とも安定的な経営をしていくためには、各商店が買物客のニーズや不満に対応した店づくりをしていく必要性を感じます。

村商業組合（加盟十二店舗）という任意団体は、将来の商店街づくりを目指して、消費者セールのなどを行っています。

商店街活動に対する各商店の評価は、「まあ活発である」を含め評価しているのが三五・五％と少ない現状です。商店街活動への協力態勢を見ますと「積極的に協力している」と答えた経営者は一二・七％だけで、残りの人たちは、消極的な姿勢を示しています。

お客をつなぎ止めるためには、個々の商店の魅力づくりも大切ですが、それ以

買物 動向 調査	
買回品	全品目
55年度	31.4%
58年度	30.7%
61年度	49.0%

買回品	
買回品	全品目
55年度	31.4%
58年度	30.7%
61年度	49.0%

買回品	
買回品	全品目
55年度	31.4%
58年度	30.7%
61年度	49.0%

買回品	
買回品	全品目
55年度	31.4%
58年度	30.7%
61年度	49.0%

買回品	
買回品	全品目
55年度	31.4%
58年度	30.7%
61年度	49.0%

買回品	
買回品	全品目
55年度	31.4%
58年度	30.7%
61年度	49.0%

買回品	
買回品	全品目
55年度	31.4%
58年度	30.7%
61年度	49.0%

若者の知恵を 商店街づくりに

商工会青年部の懇談会の中では、活発な意見が出されました。現在、商工会青年部員は、三十七名おり、消費者サービスを目的とした生活講座、地域おこし講演会、各種まつりイベント

への参加など積極的な活動を展開しています。

これからの商店街づくりには、柔軟で斬新な考えをもっている商工会青年部の力の発揮が期待されます。商工会青年部が力を

合せ、商店街のイメージの創造から始めてもらいたいのです。

左の青年部の意見の中にもありますように、商店街の振興より、まず、若者の魅力を感じる村づくりが先決だという指摘があります。当村は、昭和五十九年度に総合計画を作成し、「自然と調和し、やすらぎと活

青年部懇談会のまとめから

「村づくり」

- 村づくりのメンバー、ビジョンがない。
- 若者が魅力を感じる村づくりが先決である。
- 観光客の受け入れ体制が必要。
- 村民は他への希望が強く、自分を含めた考え方をしない。
- 長期的展望がない。
- 行政主導とはいえ、地域おこしには住民パワーが必要。

「店づくり」

- 専門店として客を呼べる店にする。
- 個々の商店が魅力ある店づくりをする。
- ターゲットをしっかりと個性を出す。
- サービスや人的つながりで勝負する。
- 日々の暮らしに困らないので切羽つまったものがない。
- Aコープが喝える地域おこし、共存共栄は一方的である。
- Aコープができたことにより、村全体の利便性は増している。

「父親との違い」

- 過去の成功例にとらわれている。
- 販売技術面にギャップがある。

力ある生みよい村」をメインテーマに村づくりを進めています。しかし、農業、地場産業の低迷と、当村をとり巻く情勢はとも厳しいものがあります。この現状を打破していくためには若者のパワーが必要です。六月二十五日には、商工会青年部と農業青年協議会との交流会も開かれました。こうした異業種の交流は、視野を広め、更に若者の力が結果される点でとてもよいことだと思っています。

商店街診断の勧告編では次のような提言をしています。中里村には、その「顔」にふさわしい生活関連ゾーンがなく、自然の成り行きから各施設が散在している。このまま放置すれば住民のための街づくりは不可能になる。村民の希望なり要望する施設、アメニティ施設を中心地区に集約する。そしてこのゾーンを村民のコミュニケーション、情報交換の場とし、買物を楽しめ、一日の疲れをいやすゾーンにする。中心地区ゾーンの必要施設として公共機関、交通機関、買物施設、文化施設、スポーツ施設、レジャー施設等が考えられる。買物プラスチックファアの要素をもつ、複合的な施設

が一地区に集合してこそ、その魅力の相乗効果が現われ、他市町村からの流入客の増加や、地域住民の満足感が高まるものと思われると指摘しています。この勧告編を実現するためには、村も深くかかわる必要があります。しかし、それ以上に大切なのは、商工会内部からの動きです。この芽を大事に育てていかなければなりません。他力本願でなく自分たちの考えをまとめ実行していく力こそ大切だと思っています。このプラン実現のため、各商店がやること、商店街としてやること、村がやることを明確にして、他に誇れる商店街づくりを目指したいものです。

地域構想の中に 位置づけを

滝沢 敬一さん
(重地)

子どものころ、田沢商店街の華やかさに驚いたものでした。そこには素朴な少年の思いつく絵の情熱と物があつたような気がします。ノコード、自転車、漫画雑誌。どれを見ても胸躍る「物」がそこには確かにあつたのです。

あらゆる「物」が氾濫している現在、過去の様に「物」だけを前面に出して商業振興を考えるのはあまりに無力です。すべての業界の壁を取り払い地域構想の中での商店街整備を考えていかないと中里村は永遠に鳥合の衆の集まりに終わってしまうと思うのですが。

商店街づくりに 若者の発想を

涌井 誠一さん
(上山)

自分の店を列にとりまると、あまりにも品数が多く、店の個性がない状態です。これからは「この商品はあの店に」というように、個店のカラーを出していく必要があると思います。国道拡幅時には、少なくともアーケードの設置は実現したいものです。できればそれにプラスして、小公園的な物を整備し、ゆつくりと買物を楽しめる雰囲気づくりが大切だと思います。21世紀の商店街づくりに向けて、若者の柔軟な発想を生かしたいものです。

村民の英知を集め産業おこし

ふるさと産業おこしスタート

村では、地域活性化の方策として、県の推進する、「ふるさと産業おこし推進事業」を取り入れ事業を進めています。

当村の主産業であった絹織物業の衰退で若年労働者の村外流出が止まること

が急務となっています。村内の産業の振興を図る方策としては企業誘致と地場産業等が考えられます。しかし、企業誘致は、最近の円高等でますます産業の空洞化現象を招き、優良企業の村内への誘致は難しい状況です。こうした状況の中で、地場

産業によせる期待が大きくなっています。現在、村内でも、農林水産物の二次加工で新しい仕事場づくりも試みられています。しかしながら、販路や商品開発等の問題で、商業ベースに乗っているのは数少ない現状です。

村民の英知を集め 特産品開発へ

ふるさと産業おこしを進めていくためには、現在、特産品開発に携わっている人や関係者の知恵を集めることが先決です。村ではこのため、「ふるさと産業おこし」を進めるに当たっては

事業は

三本の柱で

ふるさと産業おこしは、人づくり事業、啓蒙普及宣伝事業、地域資源の有効利用の三本の柱で進めています。

まず、この具体的な事業は左記に掲げる内容です。今後は、団体連絡会議のメンバーを、業種ごとに分け、それぞれの課題について具体的に進めていく方針です。

この事業の総経費は、二百四十五万五千円で、その内の百万円が県から補助されます。この補助事業は単年度で終了しますが、来年度以降も産業おこし事業を進めていきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

若者の団結 そして村づくりへ

6月25日、田沢の2階は若い熱気に包まれました。この日、村内の二大若手グループである、農業青年協議会(会長山本信宏、会員63名)と商工会青年部(部長桐登規雄、会員37名)のはじめての交流会が行われました。これは、商工会青年部の呼びかけで実現したものです。

はじめての交流ということで、お互いの会の紹介と代表者による体験談が話された後「飲みコミュニケーション」に移りました。自己紹介では、農業や商業の置かれている厳しい状況も話され、お互いの立場を知り合いました。

今回の交流の中では「今後もこうした機会を」という意見が多く、村の活性化への意欲が伝わってきました。他に誇れる村を目指して若者の英知を結集しましょう。



若者のパワーで地域に活力を

《ふるさと産業おこし推進事業計画》

- 講演会・テーマ「地域活性化戦略NOW」
- 地域資源調査・村民アンケート・資源調査
- 食文化調査・伝統食品調査
- 先進事例調査・村民研修事業制度を利用
- 地場産業フェア・村内加工・製造産物の展示試食会・商談会の開催・試作品の展示及び試食会・パッケージ包装指導会・イベント事業
- 試作品の作成
- 講習会・クラ細工
- 流通調査・都市住民意向調査・流通事情調査

松を枯す犯人

いま、全国の松が松くい虫によってつきつぎと食い荒されています。県内では昭和五十二年に初めて発生しました。当村には、まとまった松林は少ないですが山崎神社境内、田沢虚空蔵菩薩公園、宇川新田などの数箇所被害が発生しています。六月十八日には、山崎神社の松に防除作業が行われました。

大切な松は予防を

大切な松を所有している人は、役場開発課へ連絡してください。予防薬や防除の指導を行っています。

村内でも発生 早めの防除を



完成予想図

中里村と津南町赤沢を結ぶ全長十一キロの広域農道（地蔵幹道）（広域農道）の事業認可が下りてから早四年目を迎えています。

皆さんもご存知のとおり既に国道三五三号線の桔梗原入口から倉俣橋（仮称）の橋台までの道路改良と、橋脚三本の工事が終了しています。

今年度は、この農道工事に約一億九千五百万円の手算がつく見込みで、残りの二本の橋脚と橋げたの工事が行われる予定です。予算が順調に付けば、来年の十二月ころには完成する予定です。

夢のかけ橋来年中に

広域農道

です。

過去三年間で
五億五千三百万円を投入

この広域農道の工事は、津南町と中里村で進めています。今までに約五億五千三百万円の工事費が投入されています。また、現在事業認可を受けている全長が完成するまでは、四十四億七千万円の工事費が見込まれています。

冬期の不安解消へ

倉俣橋が完成しますと、倉俣地区の人たちは、へつりを通らなくて済み、冬期間の安全が図られます。また、今までは、津南町の駒返り地内を通らなければ中心街に出られませんでした。この橋の完成でこうした事態がなくなります。

地域経済の発展に希望

現在、倉俣地区では、県道中深見越後田沢停車場線の改良が進んでいます。また、村道清田山線の改良工事も着手され、清津峡・清田山自然運動公園・七ツ釜

防犯は地域ぐるみで

へつり防犯連絡会

昭和52年5月に結成された倉俣地区のへつり防犯連絡会（会長、高野林平）の、結成10周年記念大会が、6月13日倉俣生活改善センターで開かれました。

この日は、防犯フィルムの上映の後、会に永年功献された倉俣の志田正一さんと平川竹雄一さんに感謝状が贈られました。また、十日町警察署の小熊青少年防犯隊長が、最近の青少年非行の現状と悪質訪問販売の手口などを話してくれました。

へつり防犯連絡会の活動は、各集落に選任された連絡員が、月一回と盆、祭りにパトロールを実施しています。また、へつり防犯ニュースも発行し、地区内の防犯意識を高めています。



防犯運動は地域ぐるみで

の観光ルート化も進めやすくなります。

現在、当村で畑作が軌道に乗っているのは、田沢地区の一部と倉俣地区です。倉俣地区で生産される野菜は、倉俣野菜集出荷場に集められ、最盛期はここから直接関東市場へトラック便がでています。幸にも倉俣地区の野菜生産は順調で、後継者も育っています。将来的には、高道山・朴木沢・上山原・東田沢・珠川を



早期完成が待たれる

経て十日町市の池の平まで続く全長四十一キロの広域農道となる見込みです。現在の農産物の流通市場の中では、生産地から消費地までの時間短縮が大きな課題です。

この広域農道の完成で、広域的な流通体制を確立していくことが今後の大きな課題です。水稲栽培がますます厳しくなる現在、そまや花井への期待が大きくなってきています。

伝言板

公民館から

- ★親子自然観察教室
日時 七月十二日(日)
場所 小松原温泉
内容 高山植物観察
- ★高齢者講座
日時 七月二十二日(水)
午前十時から
場所 老人福祉センター
内容 総合センター
午後、時事問題について講演会
- 日時 八月五日(水)

- ★移動図書館
日時 七月十七・三十一日
午後十二時～一時
場所 芋川・倉俣
- 日時 七月二十日
午後十二時～一時半
場所 重地・下山・田代
- ★村史特別講座
日時 八月十日(月)
午後七時半から
講師 須藤重夫先生
- ★中里村社会教育短期大学
日時 七月二十七日(月)
午後七時から
場所 総合センター
内容 日本経済と時事問題（短大生のみ）
- ★村民体育大会
日時 七月二十六日(日)
午前九時から
場所 中里中グラウンド
- ★村史特別講座
日時 八月十日(月)
午後七時半から
講師 須藤重夫先生



ちよっとしたミスが事故のもと

あせりは禁物 交通事故

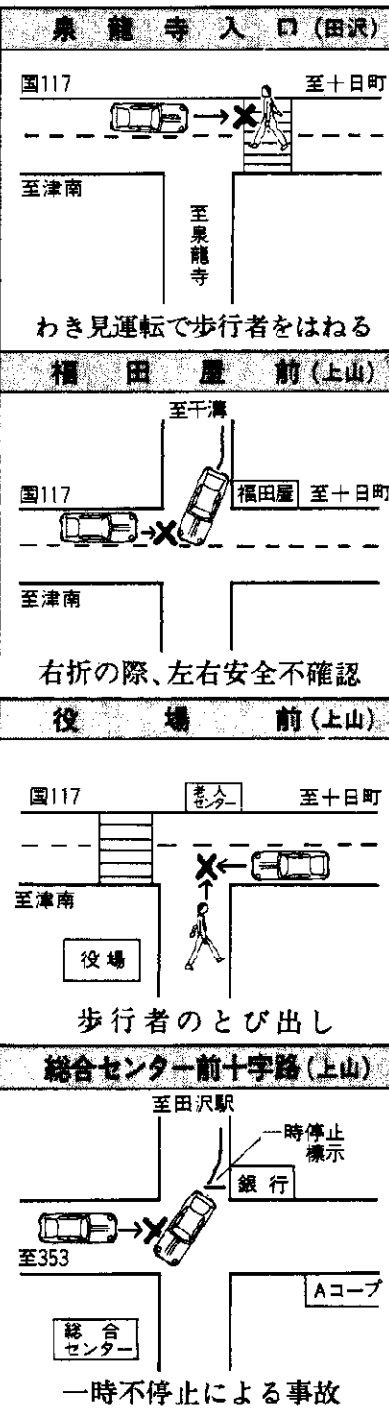
STOP

村では過去五年間の交通事故の事故分析とその対策を進めています。村内の事故の約半数が交差点での事故です。その中でも右折時の事故が目立ちます。また、お年よりや婦人による原付バイクの事故が増加しています。交通事故は他人事ではありません。家族で交通事故について話し合いをしましょう。

過去五年間で人身交通事故が三回以上発生している場所は、泉龍寺入口付近四件、総合センター前十字路四件、福田屋付近三件、役場前三件、駅通り十字路三件、となっています。これらの事故原因として一番多いのは、わき見運転など前方不注意によるものです。その他のものとしては、発進時の左右未確認、後方の安全未確認、一時不停止、とび出しなどとなっています。この中で、総合センター前十字路は、周りに障害物がなくとも視界が良いにもかかわらず、事故が多発しています。

国道三五三号線清津峡方面での事故は、その半数以上がカーブでの事故となっています。原因として一番多いのはスピードの出過ぎによる事故です。また内回りなど対向車線に入っている衝突事故が目立っています。

事故多発地点



「安全運転を自分自身に」

車は、この社会にはなくてはならないものです。十二峠の整備に伴ない、県外からの車も多く利用されています。県外車の多くは高速道路を利用して来るため、スピード感覚が甘くなっています。その上、道幅が狭くカーブの多いことが重なり事故が多くなっています。

他人事ではありません

交通事故の多くがチョッととした運転ミスです。わたしたちも考え事をしながら運転をしていて、前方車の停車に気づかず、あわててブレーキを踏むことがあります。この時、タイミングが悪ければ事故になっていくのです。

スタートをする前に

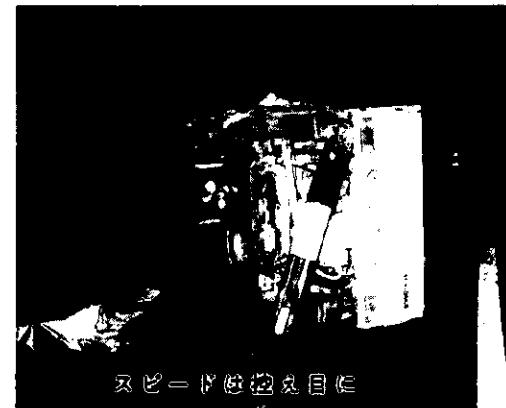
「安全運転を自分自身に」

車は、この社会にはなくてはならないものです。十二峠の整備に伴ない、県外からの車も多く利用されています。県外車の多くは高速道路を利用して来るため、スピード感覚が甘くなっています。その上、道幅が狭くカーブの多いことが重なり事故が多くなっています。

ではならないのです。しかし、昨年全国で九千三百七十七人もの人たちが交通事故で亡くなっています。交通事故は一瞬にして、人の命を奪ってしまいます。朝「いってきまう」といって家を出た人が、無言の帰宅をする悲劇が、いまこの瞬間にも発生しています。

昨年、県警から「おじいちゃんたないま」という死亡事故現場に立合った警察官の手記が、痛ましい交通事故の模様が描かれ涙なしでは読まれませんでした。

「初心に返れ」という言葉があります。が、運転する際は、初心に返って運転マナーを守りましょう。



スピードは命の目

1015